

五期俳句会第百七十四回二月二日

久し振りに、五名揃うやっぱり人数が少ないと何となく落着かないし、おしゃべりもはずまない。殊に久貝さんが色々面白いことを話してくれるので楽しい。

駅舎にも輪飾りほのと花白し

今井由紀子

薄氷うすらいや悪戯心沸いて来る

浅香さとみ

春招く三笠の山に炎立ほむらつ

塩田豆子

小鳥来る斑ふ入り青木の実の赤き

松浦武子

葱きざむ音や香りに母惚ぶ

今井由紀子

ろう梅の淡き黄色のふくらみて

塩田豆子

うたかたの如くに過ぎて一月尽

塩田豆子

傾眠めく悪しき癖つき冬籠

浅香さとみ

時々は食卓にのる寒しじみ

久貝貞子

城閣に白梅凜と風の中

今井由紀子

尾長鴨すつくと首たて気品あり

松浦武子

お茶会の花はや椿生けてあり

松浦武子

冬木立鳥群れ遊ぶさわがしき

今井由紀子

年玉や孫三人でも大散財

浅香さとみ

あけくれの八十路の春や夢ばかり

塩田豆子

人生双六そろそろ先が見えて来た

浅香さとみ

硝子窓結露がぼかす街あかり

塩田豆子

薄暮どき懸かれる月の寒々と

松浦武子

枯れ蔦の如くこの世にしがみつき

今井由紀子

いつまでも寒かったり急に暖かくなったりと体調をくづしやす

いので困る、皆頑張って来てくれて本当に良かった。